



# スウェーデン調査報告

現地訪問期間：2024年2月2日～16日

現地訪問メンバー：

石田 洋子・塩満 典子（広島大学）

丸山 実子（島根大学）



# 調査目的

スウェーデン南部の地方4大学を対象に、女性研究者支援の取組の実施状況と課題に関する聞き取り調査を中心に、データ収集を行う。

## 主な調査項目

- 1) 大学の基本方針、取組の変遷と成果
- 2) 取組の計画策定と実施上の工夫
- 3) 地方大学としての戦略
- 4) STEM関連のすそ野拡大
- 5) 自治体、企業や地域との協力 など

# スウェーデンの概要

- ◆国土面積  
：約45万平方キロメートル  
（日本の約1.2倍）
- ◆スウェーデン人口  
：約1,052万人（IMF2022年）
- ◆首都  
：ストックホルム（約100万人）
- ◆言語  
：スウェーデン語
- ◆調査対象市（人口）
  - ：リンシェーピン市（約10万人）
  - ：ヨーテボリ市（約50万人）
  - ：ルンド市（約9万人）



# 調査対象4大学

(本日はリンシューピン大学とルンド大学について報告)

No.	大学名	所在地	公立/ 私立	訪問日
1	<u>リンシューピン大学</u>	リンシューピン	公立	2024年2月5日
2	チャルマース工科大学	ヨーテボリ	私立	2024年2月8日
3	ヨーテボリ大学	ヨーテボリ	公立	2024年2月8日
4	<u>ルンド大学</u>	ルンド	公立	2024年2月9日

# リンシューピン大学



調査日：2024年2月5日

## <大学概要>

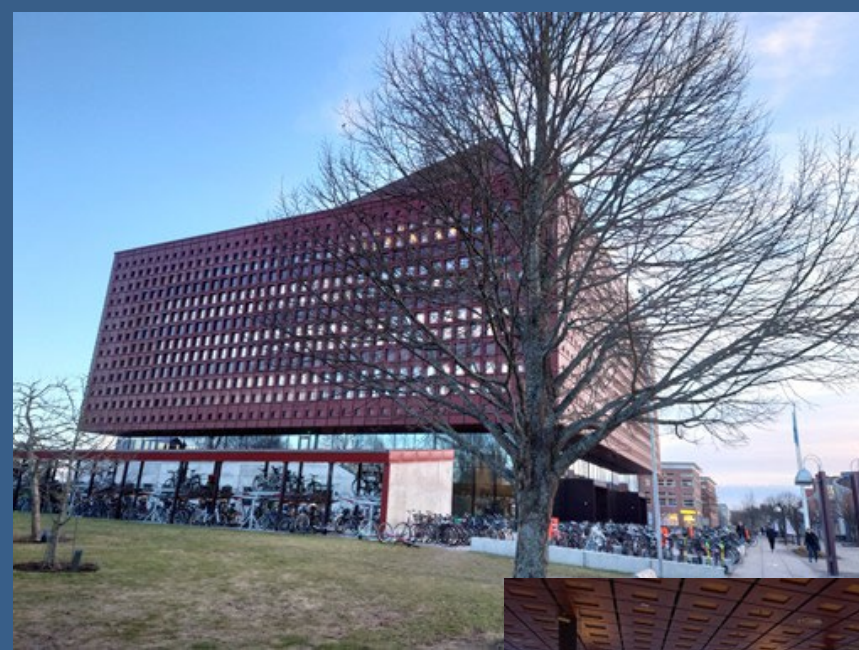
1975年創立

4つのキャンパス

37,000人の学生と4,300人の教職員

4学部

- ・芸術と科学（経済・哲学など）
- ・教育と科学
- ・医学と健康科学
- ・工学と科学



# 面談者

①

▼Helena Balogh : overall contact person LiU, MIRAI project manager

▼Linda Schultz : Equal opportunitites, central capacity

②

▼ARNE & VIVIAN : Women-up STEM project

③Eva Bolander : Forum for Gender studies and equality

④Malin Arvidsson : Equal opportunitites, faculty



# 収集データ

## ○女性研究者の割合

### ▼過去5年（2019-2023）の全学部教授職における女性比率変化

2019年23%→2023年27%

### ▼各学部の男女比率（教授のみ）

- ・芸術と科学（経済・哲学など）女性40%：男性60%
- ・医学と健康科学 女性38%：男性62%
- ・工学と科学（工学部）女性16%：男性84%
- ・教育と科学 女性20%：男性80%

※教育学部は規模が小さく教員数自体が少ない

## ○ジェンダー平等の取組

- ・ホライゾンヨーロッパ（EUの科学研究イニシアティブ）の優先課題に対応するため「平等な機会とジェンダー平等のためのアクションプラン2023」の作成と実施



# リンシューピン大学からの聞き取りメモ

- ◆ ジェンダーへの取組は、プロジェクトとして対象期間や活動を区切って行うものではなく、恒常的に実施していくべきもの。文化・政治的な面からも適切な対応が必要。
- ◆ 10年前には女性に対するポストアップ等の積極的な政策を進め、成果は上がったが、男女両方からの反発も強かったため、現在は女性に特化した取組は行っていない。
- ◆ 理工系に女性研究者が少ないことは課題であり、各分野の女性割合についてモニタリングを丁寧に行っている。
- ◆ 女性に限らず若手研究者の定着も課題であり、企業との共同研究や、魅力的な施設整備、オンラインを活用したフレキシブルな働き方（オンライン会議・勤務時間・在宅許可）などの対策を講じている。
- ◆ スウェーデンでは、「家族は一緒に住む」という考えが基本で、単身赴任はほとんどない。パートナーのどちらかが大学に勤務したら、一方は同じ土地に就職するか、或いはどちらかがテレワーク勤務などのフレキシブルな体制をとる。
- ◆ スウェーデン国内だけでなく、欧州、アジア、アフリカなど全世界を対象に教員も学生も優秀な人材を集めることを目指し、英語重視の教育体制をとっている。
- ◆ 男女にかかわらず、数学・自然科学などが面白いものだと伝えるのは、子どもの時代からが重要。駅そばの商店街近くにある同大学キャンパスには企業と協力して、遊びながら理工系に関心を持ってもらえるような施設を開放している。
- ◆ 若手で小さな子供のいる女性研究者へのスタートアップを手厚くし、魅力的な大学であることが大切



# ルンド大学



訪問日：2024年2月9日

## ＜大学概要＞

- ・スウェーデン内の大学として2番目に古い。
- ・1666年に設立。
- ・世界トップクラスの大学の1つ
- ・約44,000人の学生と8,000人の教職員
- ・ルンドを中心に、ヘルシンボリ、マルメ、ユングビヘッドに拠点をく
- ・8学部（経済・経営学部、芸術（美術・音楽）学部、人文科学・神学部、法文学部、医学部、自然科学部、社会学部、理工学部（工学部だけ別にしたルンド工科大学（LTH））



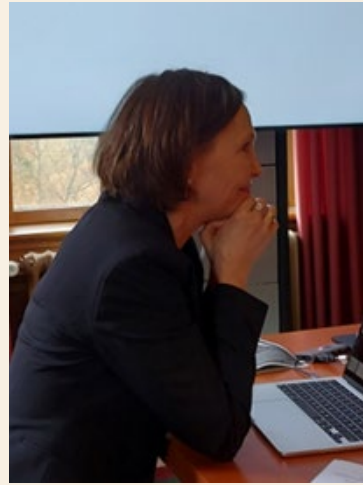
# 面談者



• Lena Lindell 氏、ル  
ンド大学 EDI チーム  
コーディネーター



• トーマス・ブレイジ  
教授 理学部数理物  
理学



• カリン・レンゲフォ  
ルス教授 (理学部副  
学部長)

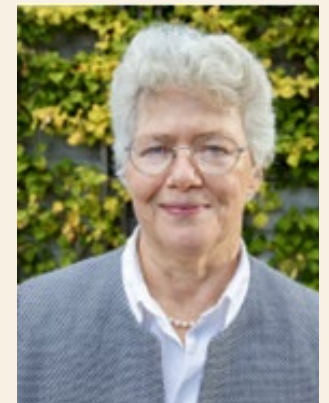


## <LDH大学での面談>



• Johan Revstedt 教授  
• LTH学部長アニカ・オルソン教授 他  
<案内> Andrea Nord (LTH 管理コーディネーター)

• LTH物理学科のアンヌ・ル  
イリエ教授 (ノーベル物理  
学賞受賞者)



# 収集データ

## ○女性研究者の状況

- ・女性教員の比率

2021 : 40%、2022 : 40%、2023 : 41%

- ・女性比率

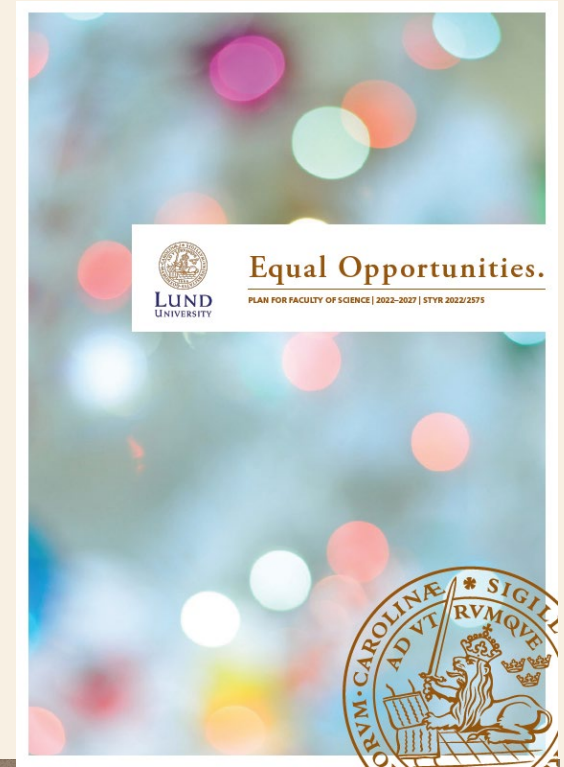
(教授のみ 2021 : 29%、2022 : 30%、2023 : 32%)

## ○ジェンダー平等の取組

- ・ホライゾンヨーロッパの優先課題に対応するため、ルンド大学「理工系におけるジェンダー平等推進計画（2022-2027年）」を作成し実施中

- ・工学部はLTH（ルンド工科大学）として独立し、大学全体を牽引してジェンダー支援を実施

- ・LTHにおけるリーゼ・マイトナー・プログラムが女性研究者支援の基盤となった。物理学者リーゼ・マイトナー教授の研究と社会貢献を称える研修支援制度で、理工系への関心を高めることを目指す



# ルンド大学からの聞き取りメモ

- ◆ 理学部における副学長（女性）の存在・牽引力が組織の核として大きい
- ◆ 男女平等への取り組みは、短期的なプロジェクトとしては行っておらず、大学の恒常的な姿勢を示すものである
- ◆ 歴代の女性研究者の取り組みが、形となって現在に引き継がれており、教職員も学生もロールモデルとして目指している
- ◆ 特に、工学部を特化した（LTH工科大学）の設置は大きく、特別なプログラムが特別な教職員とともに運営され支援されている。これらのプログラムが男女、身分、所属関係なく実施される存在は大きい
- ◆ 教職員を適切にマネジメントし、地方大学として若手研究者の定着を強化するために、大学が変わっていかねばならないという課題はある
- ◆ オンライン等を活用したフレキシブルな働き方（オンライン会議・生活に配慮された会議時間）が浸透している
- ◆ 理系への興味関心を高めるために、地域の小中学校との連携は積極的に行っている。小中学生によるバス訪問などを企画している
- ◆ また、女性研究者へのスタートアップを手厚くし、国内外に対して魅力的な大学であることを強調している
- ◆ 個々のキャリアデザインを描けるよう、ロールモデルを示す機会を提供している



ありがとうございました

[maruyamaji@jn.shimane-u.ac.jp](mailto:maruyamaji@jn.shimane-u.ac.jp)